

目次

序文 I(1961年)/序文 II(2002年)

序説 サンタ・サビーナ教会木彫扉の概観と修復の問題

サンタ・サビーナ教会木彫扉の概観/修復された4点のパネル/初期キリスト教時代の他の扉におけるパネル配置ならびに装飾との比較

第I部 出エジプト記のサイクル

第1章 「モーセの召命」(出エジプト記3章1-6節)

「羊飼としてのモーセ」/「サンダルを脱ぐモーセ」あるいは「燃える柴」/「神の手から巻物を受け取るモーセ」

第2章 「蛇に変わった杖の奇跡」と「紅海渡渉」

「蛇に変わった杖の奇跡」/「紅海渡渉」/2場面を上下に配置した意味:洗礼の秘跡の象徴をめぐる文献による探索

第3章 「砂漠におけるモーセの奇跡」:「マラの苦い水」、「鶏の食事」、「マナの食事」、「ホレブの岩から湧き出す水」

「砂漠におけるモーセの奇跡」を扱う他の作例との比較/「砂漠の奇跡」4場面の図像的特質の解明:文献による探索

第II部 「受難」と「復活」のサイクル

第4章 「ペテロの呑みの予告」

主題の2つの局面とその選択:初期キリスト教時代の諸作品との比較/石棺浮彫における「ペテロの呑みの予告」/柱上の鶏をめぐる/教皇レオの説教における「ペテロの呑み」をめぐる解釈

第5章 「カヤバの前に連行されるキリスト」

初期キリスト教美術における他の作例との比較

第6章 「ピラトの洗手」と「十字架の道行き」

「受難石棺」との比較/サンタ・サビーナ浮彫の新たな特徴/教皇レオの説教におけるイエスの裁判についての見解

第7章 「磔刑」

サンタ・サビーナの「磔刑」の特徴と意味/十字架の特殊な用法と、象徴的手段による「磔刑」の間接的な暗示/受難サイクルの1駒としての「磔刑」/「磔刑」の神秘における両性論の具現:教皇レオの「受難」についての説教から

第8章 「キリストの墓を訪れる女たち」

天使の登場と「キリストの墓を訪れる女たち」の図像形成/墓の形態と建築表現の問題

第9章 「女たちの前に出現するキリスト」

図像の出典:「カイレーテ」と「ノリ・メ・タンゲレ」/形成期の作例に認められる複数場面の混成

第10章 「使徒たちの前に出現するキリスト」

復活後の多数の「使徒たちへの出現」からの主題選択/モノグラム型のニブスについて/特殊なニブスの意味:レオの説教による解明の試み

第11章 「キリスト昇天」

天使による救援のテーマ/サンタ・サビーナ浮彫の特殊な「昇天」をめぐる文献的源泉/4人の使徒の多様なポーズ/雲の表現/結語:「昇天」におけるキリストの人間性と神性の問題

第III部 三点の孤立したパネル

第12章 「東方三博士の礼拝」

「高められた」玉座/「東方三博士の礼拝」における「高められた」玉座の意味

第13章 「キリストの奇跡」:「盲人の治癒」「パンと魚の増加」「カナの婚礼」

「盲人の治癒」/「パンと魚の増加」/「カナの婚礼」/キリストの奇跡とモーセの奇跡の予型的な関係:教父テキストを中心に

第14章 「アクラマティオ」のパネル

これまでに提唱された解釈/「アクラマティオ」の構図と皇帝崇拜美術の比較/カントローヴィッツの解釈:「キュリオス・パントクラトル」の終末的アドヴェントゥスの紹介と批判/新たな仮説:寄進者の表現

第IV部 右扉右列の4点のパネル

第15章 「エリアの昇天」(列王紀略2章11-13節)

初期キリスト教美術における「エリアの昇天」図像の概観/ヘレニズム・ローマ美術における先駆的用例/「エリアの昇天」の文献的源泉(教父テキスト)/「エリアの昇天」の目撃証人:ヨルダン河に落ちた斧の挿話

第16章 「ハバククへの天使の出現」

ダニエルとハバククに関する他の作例との比較/「ガニューメデスの誘拐」と牧歌的テーマ/聖体の秘跡の象徴:教父テキスト

第17章 「二人の使徒の間でパンを祝福するキリスト」

これまでの多様な解釈の紹介と批判/新しい仮説:「ヨハネとパウロの間でパンを祝福するキリスト」

第18章 「キリストの永遠の統治下における普遍的教会の設立」

2聖人に囲まれたオランスと戴冠のテーマ/東方型「昇天」ならびに「総合的テオファネイア」図像との比較/大構図装飾の2つのテーマとの比較:「恒常的テオファネイア」/女性オランス像の同定と十字架の出現(「人の子の兆」?)/「普遍的教会の設立」:「Concordia Petri et Pauli」/結語:「キリストの永遠の統治下における『普遍的教会』の設立」

第V部 「図像プログラム」と「様式的考察」

I サンタ・サビーナ扉の図像プログラム

旧約聖書と新約聖書の予型的な関係/「Concordia Veteris et Novi Testamenti」:初期キリスト教時代の教会堂装飾における旧約、新約聖書図像の選択と配置/「聖体の秘跡」の石棺、サンタ・コスタンツァのモザイク、ユニウス・バックス石棺、プレシアの象牙遺物箱/「Tituli historiarum」における旧約と新約の主題選択/受難・復活の連続的サイクルと、モーセ:キリストの対比/造形的手段による「キリストの恩寵の優位」の諸表現

II サンタ・サビーナ扉浮彫の様式的考察

様式的考察に基づく18点のパネルの分類/初期キリスト教美術の周辺作品との様式的比較

結論にかえて:失われたパネルの主題は復原可能か

5世紀のバシリカにおける扉口の数と位置、ならびに2002年の現状/スピーザーによる復元試案/ロマネスク時代の教会堂扉装飾のプログラムとパネル配置/寄進者の表現をめぐる仮説の補遺

あとがき/参考文献一覧/図版出典一覧/索引



サンタ・サビーナ教会全景(上)と内部(下)

本文見本



口絵見本



刊行に当たって

辻 佐保子

ローマ、アヴェンティーノの丘に建つ、サンタ・サビーナ教会正面の木彫パネルを配した両開き扉は、初期キリスト教美術を代表する現在まで伝えられた貴重な作品である。それにもかかわらず、その浮彫パネルの全体に関する総合的な研究はまだ十分にはなされてこなかった。

これらの浮彫の図像学的な研究にいま新たに着手することは、けつして無益ではないと考える。20世紀初頭ないし前半の状況に較べると、その後の考古学的な発見や、これに続く数かずの研究成果によって、キリスト教の美術だけではなく、これに先行する異教もしくは世俗的（公的）性格の美術、さらにはユダヤ教美術との比較検討にさ

いしても、はるかに多くの情報や知見が現在では蓄積されている。同様にして、研究方法についても、より徹底した体系的な探求が可能となり、一段と有効に複雑な問題の解明に取り組むことができるはずである。

【序文 一（一九六二年より）】

本書の基本となる構成は、なるべくフランス語博士論文（*Etude iconographique des reliefs des portes de Sainte-Sabine à Rome, Paris, 1961*）の骨子を残すように心がけた。ほぼ40年に及ぶ期間に刊行された多数の関連文献のうち、直接に内容にかかわる場合は、できる限り本文にそれを取り込むよう努力した。研究方法の上での変貌は、この期間に刊行した著書や論文集において探求したことに較べると、最初の構想を生かそうとしたため、それほど明白ではないかもしれない。ともあれ、長い紆余曲折を経たのちに、今ようやく再び出発点に帰還できたことを、素直に感謝したいと思う。

【序文 二（二〇〇三年より）】

ローマのサンタ・サビーナ教会に現在まで遺る、初期キリスト教美術の遺品である18点の木彫扉パネル1点1点について、古代末期・初期中世にわたる多数の諸作例と比較し、パリ大学提出の博士論文に大幅に手を加えた論考、根拠となるキリスト教文献を探索した研究論文に、写真家・岡村崔による木彫パネルの写真を口絵として収録する。

[著者略歴]

辻 佐保子(つじ・さほこ)

1930年生まれ。東京大学大学院博士課程修了(美学・美術史専攻)在学中にフランス政府給費留学生、フランス政府招聘研究員として渡仏、パリ大学高等学術研究所に所属し、キリスト教考古学の博士号を取得。名古屋大学文学部哲学科美学・美術史講座主任教授、お茶の水女子大学文教育学部教授を経て、1996年退官。名古屋大学名誉教授。著書に『古典世界からキリスト教世界へ——舗床モザイクをめぐる試論』岩波書店、1982年、『中世絵画を読む』岩波書店、1987年、『天使の舞いおりるところ』岩波書店、1990年、『ビザンティン美術の表象世界』岩波書店、1993年、『中世写本の採飾と挿絵』岩波書店、1995年など。

岡村 崔(おかむら・たかし)

1927年東京生まれ。写真家。旧制静岡中卒。日本大学理工学部建築学科中退。約30年間ローマに住み、欧州美術の撮影を続ける。『大系世界の美術(学習研究社)』『世界彫刻美術全集(小学館)』『エトルリアの壁画(岩波書店、1985年)』『ミケランジェロ・ヴァティカン壁画(講談社)』など多数の国際出版に写真を提供する。ダンテ・アリエグリ文学・芸術国際賞、マルコ・ポーロ賞などを受賞。

A4判上製函入 本文516頁 モノクロ口絵44頁 挿図355点
定価(本体38,000円+税)
ISBN4-8055-0446-3 C3072

本書の特色

- 1980年代に改修を受ける前に撮影された、サンタ・サビーナ教会の木彫扉の貴重な写真を口絵として収録
- キリスト教のみならず、さまざまな古代末期・初期中世の西洋美術における豊富な図像史料を挿図として掲載、木彫パネルの源泉を探る。
- 数多くの文献史料を引用、西洋史・西洋美術史だけでなく、キリスト教学など広範な研究に貢献する。



◆中央公論美術出版西洋美術史関連書籍◆

シャルトル大聖堂のステンドグラス

木俣元一 著

A4判上製函入 本文296頁 カラー口絵120頁 定価(本体36,000円+税)

十二世紀中期及び十三世紀初頭のフランス・ゴシック様式を代表する貴重な建築と美術がほぼ完全に現存するシャルトル大聖堂のステンドグラスを取り上げ、欧米の研究状況に照らし、その図像解析においてこれまでにない独創的な視点と方法に基づいた研究成果を書き下ろして公刊する。

ISBN4-8055-0436-6 C3072

ボルソ・デステとスキファノイア壁画

京谷啓徳著

B5判上製函入 本文266頁 口絵18頁 定価(本体26,000円+税)

フェッラーラ君主ボルソ・デステの注文により制作されたスキファノイア宮殿「十二月の間」装飾壁画において美術作品がルネサンス君主のプロパガンダの場としていかに機能しているかを考究する。十五世紀イタリア宮廷美術研究の新たな領域に貢献をなす意欲的論考である。

ISBN4-8055-0431-5 C3071

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7読売中公ビル内
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは